



つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 27号 2010.2.4 発行 社会政策研究所

新宿区が障害給付の申請拒否で謝罪（CB ニュースから）【kobi】

東京都新宿区は2月2日、65歳以上で障害者手帳を取得した人が、介護保険から給付されるサービスに追加して、障害者自立支援法から給付されるサービスを利用することを拒否する「独自ルール」を昨年10月から運用していたとして、区民に対しホームページを通じて謝罪した。

同区の障害者福祉課によれば、障害者自立支援法がスタートした2006年4月から昨年9月までに、介護保険を利用した上で障害給付も上乗せして利用するケースが6件あったが、昨年10月からはそのような申請を拒否していたという。

筋萎縮性側索硬化症（ALS）と診断され、介護保険の給付でヘルパーを利用していた学習院大の篠沢秀夫名誉教授が、障害給付によるサービスを追加しようと、昨年11月に同区に申請を行ったが、同区は申請を断った。

障害者福祉課では、07年3月に厚生労働省が出した通知「障害者自立支援法に基づく自立支援給付と介護保険制度との適用関係等について」への対応について内部で検討したところ、障害の内容が特定されていないことなどから、「対象者が増えてしまうことで、とても対応できない」と判断。「65歳以上は介護保険が優先されることから、65歳以降に障害となった人はお断りをして、対象を絞り込みたいということがあった」としている。

同区は、運用は不適切だったとして謝罪し、今後は個々の事例を見ながら必要に応じて障害給付を行うほか、事実関係の調査を進めるとしている。

このニュースは本当なのかなと思いました。行政の一般的な対応として、とても信じられません。新宿区のホームページを調べてみました。すると・・・【kobi】

区民の皆様へ 障害者自立支援法に基づく障害給付に対する新宿区の対応について

新宿区においては、平成21年10月に、65歳以上で新たに障害者手帳を取得された方に対する障害給付について、同種のサービスが介護保険により給付される場合、介護保険を一律に優先して適用することとしました。

この結果、同月以降は新たに65歳以上で障害者手帳を取得された方に対して、介護保険サービスのみでは対応できない個々の状態に応じて給付することができる、障害者自立支援法による必要なサービスの給付を行っていなかった事例が判明しました。

こうした運用は、不適切かつ誤ったものであり、直ちに改めました。

このような運用が行われていたことについては、障害福祉サービス利用者及び区民の皆様には深くお詫びいたします。今後このようなことが生じないように、今回の原因を徹底的に調査、究明し、区民の皆様への信頼回復に職員とともに取り組んでまいります。

平成22年2月2日

新宿区長 中山 弘子

さらに、検索エンジンを走らせると・・・ある一定の年齢以上の方にはとても懐かしい篠塚教授の様子が見つかりました。【kobi】

障害者自立支援給付：新宿区が「65歳以上認めず」の内規



妻の礼子さんの手を借りながら、夕飯を食べる篠沢秀夫名誉教授 = 東京都豊島区の病院で2010年2月2日、馬場直子撮影

障害者自立支援法で定められた居宅介護などの自立支援給付について、東京都新宿区が昨年10月以降、65歳以上の障害者から新規申請があっても認めないよう内規で定めていたことが分かった。厚生労働省は実態に応じて同給付と介護給付の両方を適用するよう求めており、区は「不適切だった」と認め、2日、措置を撤回した。

篠沢秀夫名誉教授の申請で発覚...指摘受

け撤回

テレビ番組「クイズダービー」で活躍した篠沢秀夫学習院大名誉教授（76）と妻礼子さん（69）が1月に自立支援給付の申請について相談した際に断られ、内規が発覚した。篠沢名誉教授は昨年2月に進行性の難病「筋萎縮（いしゆく）性側索硬化症」（ALS）と診断され、既に介護給付を受けていた。

厚労省の07年の通知などによると、65歳以上の障害者は、介護保険制度のサービスを受けるのが基本だが、介護負担が大きい場合などは、生活の手助けや補装具費補助などの自立支援サービスも受けることができる。

だが区は昨年10月、「対象者が増えると事務作業などの面で処理しきれなくなる」と自立支援給付の運用ルールを改定していた。

厚労省障害福祉課は「障害者自立支援法は、自治体は申請があれば面接を行い調査したうえで支給の是非を決めるよう定めている。新宿区の対応は法律違反の可能性もある」と指摘している。

中山弘子新宿区長は2日、「職員から報告を受けてがくぜんとした。明らかに不適切で間違った対応。即座に改めるよう指示した」と話した。【小泉大士】

篠沢名誉教授の妻「とりつくしまがなかった」

篠沢名誉教授はALSを患い、昨年4月に気管を切開し、たんの吸引など24時間介護が必要になった。自宅介護で、礼子さんが夜中2～3時間おきに吸引しなければならない。

礼子さんは1月、自立支援給付について区に相談したが、断られた。「とにかく新規は受け付けないととりつくしまがなかった。職員は『障害者が増え、税金で賄いきれない』と言った。まるで障害になるのが悪いようだった」と憤る。

区から2日、謝罪申し出を受け、礼子さんは「少しほっとしています」と笑顔に。篠沢名誉教授は「家内が僕の介護で疲れ果てているのが、一番心配していることです。介護士に助けていただければ幸いです。妻に遠慮し（トイレなど）ガマンしていたのです」と紙に感想を書いた。【馬場直子】

毎日新聞 2010年2月2日 22時11分（最終更新 2月2日 23時27分）

